

第3回由良川大規模内水対策部会 議事概要

日時：令和元年5月31日（金）14:00～14:55

場所：福知山市消防防災センター 2階研修室

【出席者（順不同）】

京都府 富山建設交通部長

京都地方気象台 瀧台長

福知山河川国道事務所 矢野所長

（以下代理出席）

福知山市 伊東副市長（大橋市長代理）

舞鶴市 矢谷建設部長（多々見市長代理）

綾部市 白波瀬市長公室長（山崎市長代理）

宮津市 今井副市長（城崎市長代理）

【マスコミ（順不同）】

毎日新聞、日刊建設タイムズ、両丹日日新聞、京都新聞、朝日新聞

議事1：各機関の取組の進捗状況（資料-1）

【各機関からの取組状況の説明】

＜福知山市＞

- ・ 福知山市は平成29年、平成30年7月豪雨と連続して内水被害に見舞われ、特に市内の大江町河守・公庄地区で大きな被害を受けたため、河守・公庄地区を内水対策のモデル地区として具体的な対応を検討している。
- ・ この地区は5つの河川が由良川に流れ込んでおり、内水による浸水被害の発生メカニズムが非常に複雑であることから、昨年度は内水メカニズムの解析を行った。
- ・ その結果を踏まえて内水対策の最適な施設計画の検討を行っている。今後の具体的な事業化、調査等については、国・府・市が役割分担を行って対策を実施していきたい。また、短期対策では、平成29年台風21号の水害の床上浸水を解消することを目標として取り組んでいく。ハード整備だけでなく、マイマップやマイタイムラインなどのソフト対策も併せて大江町河守・公庄地区をモデル地区として、取り組んでいく。ソフト対策については、樋門閉鎖時の情報を自治会毎、または自主防災組織毎に提供できるように取組み、住民の適切な避難行動に結びつけていきたい。

＜舞鶴市＞

- ・ 輪中堤地区の内水ハザードマップの作成を行っている。今後、ハザードマップを十分活用しながら、避難行動タイムラインの作成に活用していく。
- ・ 志高地区において内水被害が発生する浸水メカニズムを解析し、避難判断水位の設定を行った。今後、適宜適正に内水による避難勧告を出せるよう、市の管理河川に内水を監視する水位計を設置していく。

- ・ 排水ポンプ車を今年度購入するため、補正予算を市議会に提案する予定である。

<綾部市>

- ・ 平成 30 年 7 月の豪雨災害において、土砂災害の発生により 3 名の方の命を失うという大変大きな被害を受けた。これまで早めの避難情報の発信に努めてきたが、実際に避難行動に結びつかず、避難率の向上が求められている。
- ・ 京都府の支援により、施福寺自治会において住民主体のワークショップを 3 回開催して、いつ、どこへ、どのように避難するのかを決める水害等避難行動タイムラインの作成を行った。今後、この取組をモデルとしてタイムラインの作成の取組を広げていきたい。
- ・ 平成 27 年度に市街地の雨水対策基本計画を策定し、この計画に基づいて排水ポンプ車の導入や、浸水被害が多発している古川樋門付近への雨水ポンプ場の整備に取り組んでいる。雨水ポンプ場については、令和 4 年度、2022 年度の供用開始を目指しており、平成 30 年度については詳細設計、用地測量、用地買収を行った。

<宮津市>

- ・ 由良地区に危機管理型水位計が設置されたことより、ソフト対策として特に由良地区で避難勧告等の発令基準の見直しを行った。また、地域の危機意識の向上を図るために、ハザードマップを作成して当該地域の各戸に配布を行った。
- ・ 由良地区においては都市下水道の内水対策計画と由良川の河川整備を整合させる必要がある。由良川本川の整備に併せて内水対策の検討を行う必要があり、国と協議調整を行っていく。また、この地域は由良川鉄橋の景観が良く、地域の方の誇りになっているので、景観に配慮してほしい。

<京都府>

- ・ 京都府においては昨年度度重なる災害を受けて、災害対応の総合的検証を先月末に実施し、報告書がまとまった。6 月 3 日に予定している防災会議において、総合的検証のうち、反映すべきものについては地域防災計画の中に反映する、あるいは水防計画の中に反映するといった作業で今年度の出水期から対応することとしている。
- ・ 府が管理する大野ダムの治水能力を高めるため、事前放流目標水位を引き下げる検討、わかりやすいダム情報の提供について検討を行った。
- ・ 危機管理型水位計の配備を今年度から府内各地で実施している。そのうち由良川流域には 22 箇所に配置した。これらの水位情報については、京都府の防災関係のホームページから確認できる。この水位計は内水位の情報でもあるので、今後この水位情報を避難行動のタイムラインや避難判断の水位などの設定に活用していただきたい。

<京都地方気象台>

- ・ 洪水警報の危険度分布で内水氾濫の危険度を判定しているが、そのことについて十分周知がされていなかった。これを解決するため、様々な会議や研修会、講座等を通じて活用する方法を周知してきた。

- ・ また、内水氾濫の洪水警報の危険度分布が由良川の本川の流路によって隠れて見えないため、この表示方法について改善案を検討している。
- ・ さらに来年度以降については、設定されている支川の流路に、内水氾濫の危険度を表示する改善の検討を行っている。

＜福知山河川国道事務所＞

- ・ 本川管理者として内水被害軽減のため、外水位を下げる対策を加速して進めるため、河道掘削、樹木伐採を行っている。あわせて外水対策として築堤の整備を行っている。これらについては、昨年度の国土強靱化緊急インフラ 3 か年対策の予算等を含めて加速的に進めていく予定である。
- ・ 舞鶴市域、福知山市域については、由良川本川の水位上昇による道路冠水等により排水ポンプ車が現場に到着できない可能性があるため、昨年度に引き続き今年度についても福知山市大江町域と舞鶴市域に 2 台ずつあらかじめ前進配置して対応する予定である。
- ・ 国土交通省としても昨年度、由良川本川に危機管理型水位計を 30 箇所設置した。国土交通省の川の防災情報というホームページに危機管理型水位計の水位情報を一般公開している。今後、これらの水位情報を市町に活用していただき、住民の避難につなげていただきたい。
- ・ 昨年 7 月豪雨は長雨であり樋門操作時間が最大 60 時間に及んだことを踏まえ、樋門操作員の操作環境の改善として、休憩場所を設置、食糧備蓄等の支援を今年度も実施していく予定である。

【質疑応答】

＜京都府＞

- ・ 福知山市の説明で国・府・市が役割分担して実施していくハード対策について、府が管理する蓼原川の対策については積極的に協力していきたいと考えている。
- ・ 気象台の説明にあった内水氾濫の危険度を表示する場合、どのような仕組みで表示する場所を特定するのか。あるいは、樋門の警戒情報も反映されているのか。

＜京都地方気象台＞

- ・ 背水区間は決められているということなので、その区間に危険度を表示できないか検討する。
- ・ 降雨による指数から危険度が計算される。樋門の操作は考慮されていない。

＜福知山河川国道事務所＞

- ・ 国の役割分担としては、由良川本川の河道掘削を行い、本川水位を下げる対策を行っていく。
- ・ 排水ポンプ車の前進配置については、広域配備を行う観点から約束できるものではないと考えているが、今出水期は昨年に引き続き前進配置を行っていくこととなった。今後、昨年と違う地区での内水氾濫も想定し、どの道路がアクセス路として利用できるのか検

討し、府や市と調整させていただければありがたい。

議事2：内水による浸水対策実行計画（資料-2）

【内水による浸水対策実行計画の説明（事務局：福知山河川国道事務所）】

【質疑応答】

- ・ 特になし

議事3：今後の予定（資料-3）

【当面のスケジュール（案）の説明（事務局：福知山河川国道事務所）】

【質疑応答】

- ・ 特になし

その他

【質疑応答（全体を通して）】

- ・ 特になし

以 上